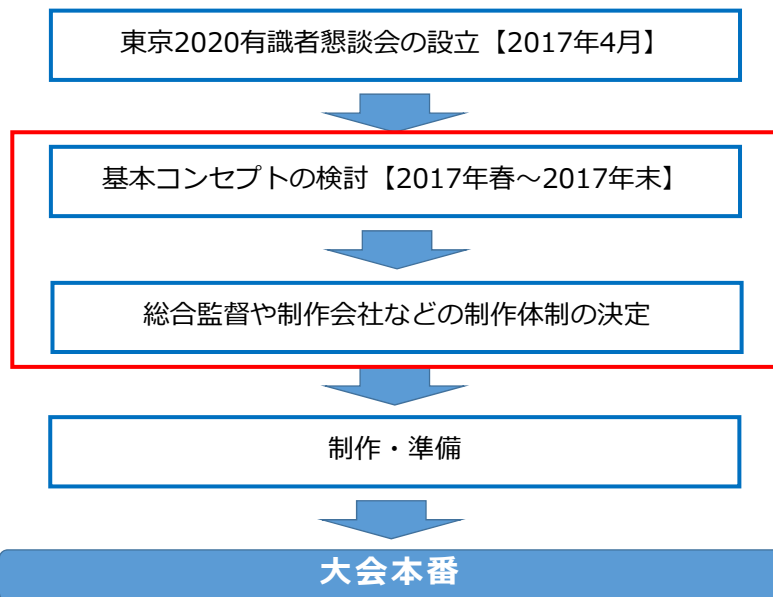


開会式・閉会式について

- ①制作業務等委託について
- ②基本コンセプト中間報告について

東京2020大会における開閉会式実施までのスケジュール



◆制作等業務委託について

1 概要

オリンピック・パラリンピック開会式・閉会式の企画・運営・実施を委託
国内外の企業を対象として、プロポーザル方式により年内に選定

2 主な委託内容

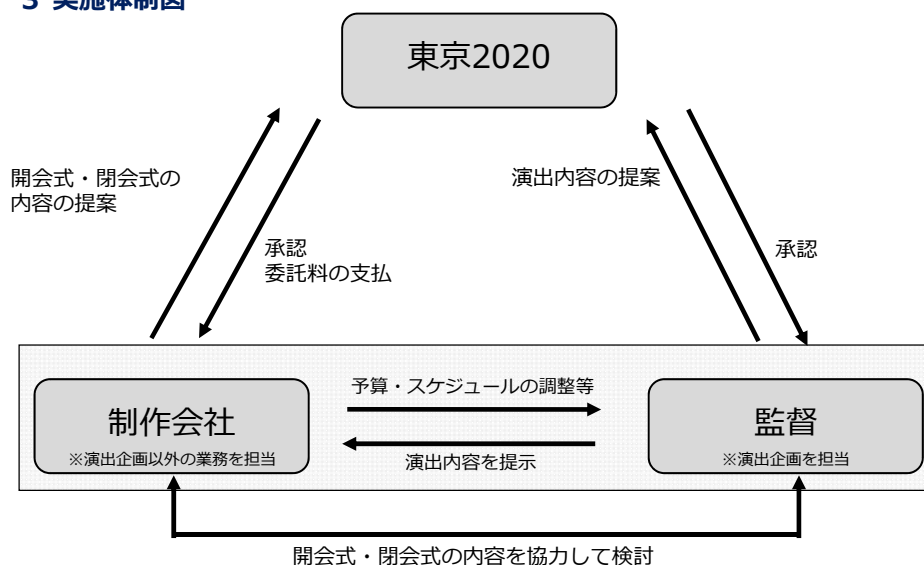
- (1) 開会式・閉会式に関わる計画・企画
- (2) 開会式・閉会式に関わる制作
- (3) 出演者、運営ボランティア等の手配
- (4) 運営・オペレーション
- (5) リハーサルの実施
- (6) ロジスティクス
- (7) 広報・エンゲージメントの支援
- (8) 新国立競技場のインフラ計画調整
- (9) その他開会式・閉会式実施運営に必要な業務一式

※開会式・閉会式の演出企画は、別途選定する監督が担当

TOKYO 2020

2

3 実施体制図



※三者の役割分担、責任範囲等を定めた三者協定を締結する

TOKYO 2020

3

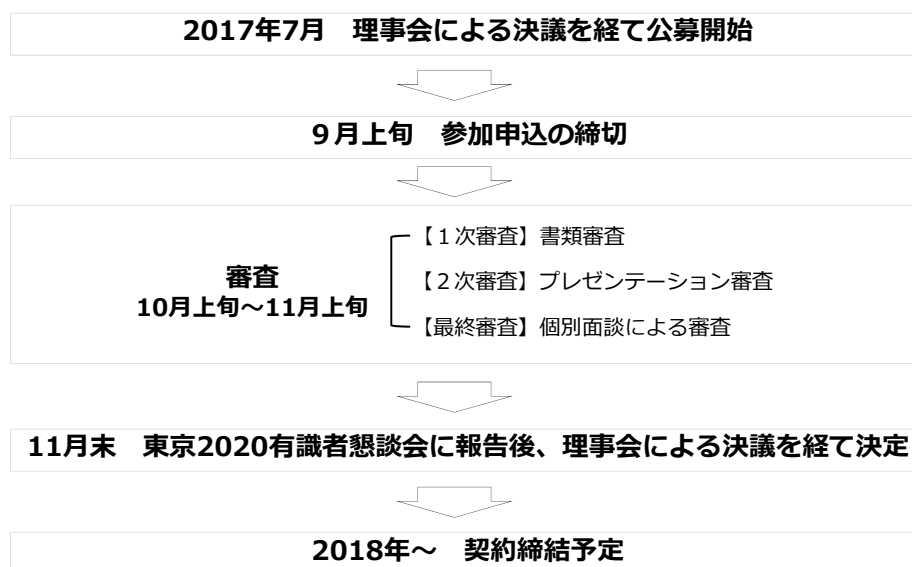
4 参加資格

- (1) 過去3年間の財務状況に問題がない
- (2) 日本国内外で開催された国際的なスポーツ大会の開会式・閉会式又は国際的な博覧会イベントの制作実施運営経験
- (3) 2000年以降のオリンピック・パラリンピック開会式・閉会式の制作実施運営経験者の実施体制への組込み
- (4) 日本の法律、商習慣等を理解し、日本語と英語2か国語での業務対応が可能（対東京2020は日本語）

等

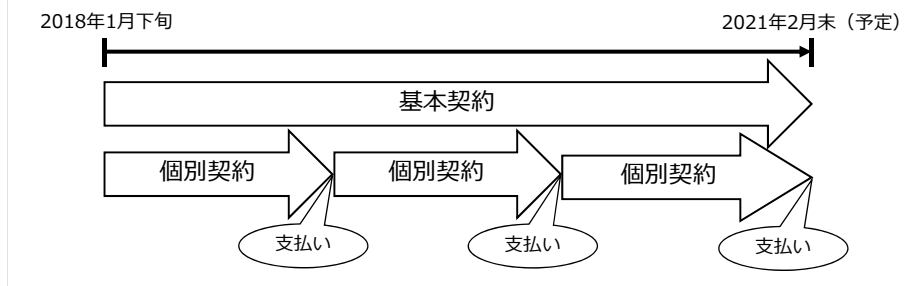
※1社では条件を満たさない場合でも、企業共同体を組むことにより条件を満たせば参加可能となる。

5 公募開始から契約締結までの流れ



6 契約方法

- (1) 2021年2月末までを契約期間とした基本契約を締結
- (2) 業務の進捗に応じて、具体的な業務内容と支払いに関する個別契約を締結



報告事項

開会式・閉会式に関する基本コンセプト中間報告その1について

開会式・閉会式に関する基本コンセプト中間報告（その1）について

基本コンセプトとは、監督の選定や演出内容を検討する上で、何を表現するか等の方向性を示すもので、本年中を目途に策定予定。

これまでにいただいた御意見数 総計 856件（7月18日現在）

①専門家へのヒアリング 166件

（グループヒアリング64名、書面での御意見102件）

期間：5月末～

備考：アスリート/歴史/文化/復興/音楽等の分野の専門家の方々へ全21回のグループヒアリング（2h/1回）を実施。

②HPでの意見募集 417件

期間：6月中旬～

③「大学連携'17イベント Tokyo 2020学園祭」でのアンケート募集 273件

日時：6月24日

場所：明治学院大学 白金キャンパス

備考：会場でのアンケートにより、多くの若者から御意見をいただいた。

④【今後の予定】 イベントでのアンケート募集

名称：東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアーフェスティバル
～みんなのTokyo 2020 3 Years to Go!～

日時：7月24日 19:30～

場所：東京都庁 都民広場

東京2020大会開会式・閉会式に関する基本コンセプト中間報告（その1）

第一章 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の位置づけ

大会全体の歴史的・社会的意義

歴史的意義

東京1964大会は経済成長や科学技術の発展の契機となり、経済的・物量的に豊かになり、また、障がいのある人のスポーツを通じた社会参加を促すきっかけとなった。東京2020大会では、50年後、100年後に振り返った際に、心が豊かになれる幸せな社会の実現に向けて、文化や社会、価値観が変わる契機となることが求められていると考える。

社会的意義

世界は今、経済や文化、政治などあらゆる面で分断が進んでいる。オリンピック・パラリンピックの意義に立ち返り、東京2020大会では、国籍や民族などのナショナリズムを超え、障がいの有無にかかわらず皆が参加し、一体感を醸成することで世界平和を祈り貢献し続けていくことを目指す。また、アジアの発展と繁栄のために、世界にメッセージを発信していく。

大会ビジョン

スポーツには世界と未来を変える力がある。1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

第二章 開会式・閉会式について

開会式・閉会式の方針

- 歴史的意義・社会的意義に鑑み、4つの開会式・閉会式を一連の式典として捉える
- 主役であるアスリートを称え、世界中の平和を祈る
- 世界を取り巻く課題に対し、日本の視点から世界に未来を提示する
- 日本・東京の文化・芸術や思想、歴史の素晴らしさを世界に向け発信する
- 誰もが開会式・閉会式の準備段階やパフォーマンスに参加できる機会をつくる
- 違いを個性として受け入れ、各々の個性を活かした多様性を受け入れる共生社会を描く

何を伝えるか

世界の代表として

- ・ 様々な分断が広がる世界に対し、平和を考える契機とする
- ・ 超高齢社会や持続可能性など多くの課題に向かい合い、世界に「未来」を提示する

日本・東京として

- ・ 日本を訪れる全ての人々を歓迎する
- ・ 被災地からの復興支援に対する感謝と世界中の災害に見舞われた人々へ勇気を伝える
- ・ 日本の歴史観を踏まえて、日本・東京の素晴らしさを伝える

どのように作り上げるのか

参加感・一体感の醸成

- ・ 誰でも参加できる、日本の祭の神輿や踊りのように、開会式・閉会式を通じて世界中の多くの方とつながる機会を作る
- ・ 皆が協力して、開会式・閉会式づくりに楽しく参加しながら、大会の理念を講義ることのできる仕組みを作る

どのように伝えるか

日本人らしさを大切にする

- ・ 日々様々な表情をみせる自然と共存している日本人らしさを表現する
- ・ 四季の色彩や色合いの変化を、日常生活に取り込む美意識を表す
- ・ 江戸時代から続く独特の情緒の美しさを見せる
- ・ 森羅万象を平等に慈しむ日本人の古来からの寛容さで、あらゆる多様性を受け入れてきた姿を表現する

異なる分野を掛け合わせ既存概念を破る

- ・ 先進テクノロジーと伝統文化を組み合わせ未来の姿を描く
- ・ 伝統あるものを、海外から入ってくるものや新しいものと融合し、独自に発展させていく力を表現する
- ・ 障がいという個性をテクノロジーと掛け合わせ、新たな可能性を探る
- ・ テクノロジーやデザインやエンターテインメントを用いて人々を分け隔てる既存概念を破る

何を残すのか

貢献・レガシー

- ・ 開会式・閉会式で伝えるメッセージが未来の豊かさを想起させ、新たな人材や若い可能性を発掘し育てるレガシーとなる
- ・ お互いの個性を共に生かし、助け合うという考えを社会に浸透させることにより共生社会に近づく



東京2020大会開会式・閉会式に関する 基本コンセプト中間報告（その1）

東京2020大会の歴史的意義

- ▷ 前回の東京1964オリンピックは、戦後日本の復興の象徴として、またその後の日本の経済の成長や科学技術の発展の出発点として多くの人々に記憶されている。また東京1964パラリンピックは、日本の障がいのある人のスポーツを通じた社会参加を促す契機となった大会である。
- ▷ 経済的に成熟し、これから世界が抱えるであろう多くの課題にいち早く直面している日本・東京は、率先して世界に対して解決策を提示し、新たな未来を見せていく必要がある。
- ▷ 50年後、100年後に東京2020大会を振り返った時に、精神的な豊かさを求める社会の実現に向けて、文化や社会、価値観が変わるきっかけになったと国内外で評価される大会にしたい。

○寄せられた御意見

- ・東京1964大会の当時は科学技術の発展がとても大事なものだったが、今回は自然というものをもう一度見直す時が来ているのではないかと。時間は一直線に未来へ向かっていくのではなく、四季のように循環するという見方をすれば、地球環境を破壊した結果は未来の自分に降りかかってくるという考えに至る。オリンピック・パラリンピックを、未来のために何ができるかということの世界レベルで考えていくきっかけとしたい
- ・2020年に向けてモビリティの技術開発が行われていて、安全・安心に関する技術、セキュリティに関する技術も非常に進歩してきた。AIや、ニューロコンピューターなどももうじき我々の手に入る時期に入ってきている。しかし、その一方で、地球環境の大きな変化の中で様々な自然災害が多発している状況であり、地球そのものの疲弊が進んでいると感じている。人類だけでなく、すべての生命が生き残れるように、いかにして地球環境を改善していくかを考える時代が来ている
- ・東京1964大会は経済成長の出発点であった。今回は経済成長だけでなく、文化や価値観が変わる出発点になるといい
- ・若者は少なくなっているが、アスリートとしてだけでなく、ボランティアとしても、スポーツや福祉の実際のところを経験してほしい
- ・東京1964大会の、カラーテレビに映るブルーインパルスが、未だに鮮明に印象に残っている。あの秋の抜けるような青空のもとでオリンピックが行われたというのは、これだけ年月が経っても、忘れることはない。今もビジュアルとして、こんなきれいな色だったと残っている。今回もそんな記憶に残るような大会にしたい
- ・オリンピック・パラリンピックに向けてポジティブな技術開発や社会の中にチャンスを作ろうとしている方が多いので、50年、100年、200年先を見通した計画を立てていきたい。2020年も今後の人々の記憶に残るのはもちろんのこと、未来に向けて遺産、レガシーを残せるような大会としてきたい
- ・東京1964大会は経済成長のきっかけで、物量的に満たされるということが幸せだった。今回は、気持ち豊かになれる、幸せな社会をみんなで作るというきっかけにしたい

東京2020大会の社会的意義

- ▷世界は今、経済や文化、政治などあらゆる面で分断が進んでいる。オリンピック・パラリンピックの意義に立ち返り、東京2020大会では、国籍や民族などのナショナリズムを超え、一体感を醸成することで、世界平和を祈り貢献し続けていくことを目指す。また、東京2020大会は、アジアの発展と繁栄のために、世界にメッセージを発信していく。
- ▷50年後、100年後に東京2020大会を振り返った時に、東京・日本が、ハードの面でも、ソフトの面でも、人々の気持ちの面でも外国人との垣根が低くなった、障害の有無での垣根がなくなった、そして人々の間、特に若者の間で社会的な参画意識が高まったといわれるような大会にしていく。

○寄せられた御意見

- ・オリンピック・パラリンピックというのは、国境を越えて平和を目指すことに意義がある。オリンピックを足掛かりとして、平和の尊さを訴えたい
- ・オリンピック・パラリンピックは競技の世界一を競う祭典であるとともに、オリンピズムの精神に基づき、差別なき、平和な世界を目指す装置としての意義がある
- ・アジア圏全体から期待され支持される大会を目指すべきである
- ・アジア圏と西洋圏とをつなぐ日本の今後の役割を示す
- ・古代オリンピックで一番特徴的なのは競技期間の前後にエケケイリアと呼ばれる休戦期間を設けたことである。オリンピックが始まる前と終わった後の一か月間は戦争も刑の執行も禁止された。それゆえオリンピックは平和の祭典と呼ばれるのであり、こうした原点の精神に今一度立ち返りたい
- ・オリンピックというスポーツの祭典を通じて、民族や国籍の違い、障がいの有無などの多様性のもとで社会が成り立っているということを、認識する機会になることを期待している
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックは、スポーツのみならず、日本の文化、芸術の素晴らしさを世界中に発信する絶好の機会である
- ・日本では、未だに日本というテーブルの中の世界に閉じこもっている人が多い。オリンピックを機に、日本人全体の精神的グローバル化、言わば「世界慣れ」がさらに進行するのではないかと。それをきっかけに50年後には、外国人が日本人と同じように私のオフィスで働いている、という世界がイメージされる。その時に、2020年オリンピックがその契機だったと思われ、文化的グローバル化が始まったということが文化的レガシーとなるのではないかと

東京2020大会を、東京1964大会に匹敵する歴史的な節目とするために、またオリンピックとパラリンピックそれぞれ固有の大会意義を示しつつ、一貫性を保つために、次のような大会ビジョンを掲げている。

東京2020大会ビジョン

スポーツには世界と未来を変える力がある
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

【参考】オリンピック・パラリンピックの精神

●オリンピック

クーベルタンが唱えたオリンピズム＝オリンピックの精神とは「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献すること」としています。

また、IOCは、近年、オリンピックの価値を卓越性（Excellence）、友愛（Friendship）、尊重（Respect）という3つのキーワードで表現し、世界の若い人々がこれを頭で理解するだけでなく、身をもって行動することを求めています。（JOC HPより参照）

●パラリンピック

パラリンピックは、様々な障がいのあるアスリートが公平に能力を発揮し活躍できる世界最高峰の競技大会です。できないことに着目するのではなく、「どうしたらできるか」の視点で創意工夫し、想像を超える競技パフォーマンスを発揮するパラリンピアンは、人々の心を揺さぶり障がいに対する認識を変え、共生社会の実現へと誘います。主催者である国際パラリンピック委員会は、パラリンピアンたちに秘められた力こそが、パラリンピックの象徴であるとし、「勇気」「強い意志」「インスピレーション」「公平」という四つの価値を重視しています。

【開会式・閉会式の方針】

オリンピック開会式からパラリンピック閉会式まで、4つの式典が実施される。大会全体の歴史的意義と社会的意義に鑑み、4つの式典を、それぞれ1つの式典として分けて考えるのではなく、一連の式典として捉えるべきではないだろうか。

●主役であるアスリートを称え、世界中の平和を祈る

開会式・閉会式の主役は大会に出場するアスリートである。開会式は、アスリートが大会に参加する為に重ねてきた努力と、これから自らの限界に挑戦する勇気を称える場である。

閉会式は観客からアスリートに対してだけではなく、アスリート同士がこれまでの互いの健闘を称え、労う場である。東京2020大会は、参加するアスリート自身も楽しむことができる開会式・閉会式を目指していく。

また、現在世界には「紛争」や「分断」「差別」が蔓延している。オリンピック・パラリンピックには、大会開催を通じて平和の尊さを訴え、国境を越えて平和を目指す意義がある。東京2020大会の開会式・閉会式では、このオリンピック・パラリンピックの原点ともいえる「平和の祭典」という考えに立ち返り、日本だからこそ提言できる「平和」を世界に発信していく。

●世界を取り巻く課題に対し、日本の視点から世界に未来を提示する

日本は、他者や前代を否定することなく、受け継ぎ・取り入れて融合することで、世界に類を見ない日本独自の文化・芸術や社会を発展させてきた。そのような日本であるからこそ、今後世界が直面する社会的課題に対して、異なる分野を掛け合わせ、新しい可能性を探ることにより、世界に対して新たな未来を提示していく。

●日本・東京の文化・芸術や思想、歴史の素晴らしさを世界に向け発信する

日本は、自然に恵まれ、また極東の島国という立地から、独自の文化・芸術、思想を育んできた。日本の気候や風土が育んだ思想や、継承し発展させてきた文化や芸術、島国であるがゆえの歴史などを日本・東京の素晴らしさとして、世界に発信していく。

●誰もが開会式・閉会式の準備段階やパフォーマンスに参加できる機会をつくる

祭り好きな日本人らしく、東京2020大会の開会式・閉会式の準備過程から、東京だけでなく日本中を巻き込み、日本全体で作り上げる開会式・閉会式を目指していく。また、開会式・閉会式の当日も会場にいる観客はもちろん、会場の外やテレビで観ている方々も関わる事ができるようなパフォーマンスを検討したい。

●違いを個性として受け入れ、各々の個性を活かした多様性を受け入れる共生社会を描く

東京2020大会は、障がいやLGBTなどを特別なものではなく個性として受け入れ、それぞれの個性を活かしつつ共鳴させることでインクルーシブな社会の実現を目指したい。開会式・閉会式では、日本・東京が多様性を受け入れる社会を実現しようとしているメッセージを伝える。

【開会式・閉会式で何を伝えるか】 2-1：世界の代表として発信すべきこと

様々な分断が広がる世界に対し、平和を考える契機とする

超高齢社会や持続可能性など多くの課題に向かい合い、世界に「未来」を提示する

○寄せられた御意見

- ・ 世界の一員として、人類の調和や平和等について世界に対する日本の貢献をメッセージとして示す
- ・ ユニバーサリズムとインターナショナリズムを美しい形で表現する
- ・ 極東のガラパゴスのような、平和な立ち位置だからこそ言えることを言う
- ・ 「みんな こんなに楽しく、仲良くできるのか」という印象を与える
- ・ 課題先進国として、同じ課題にこれから直面する人たちに新たな発見や解決策をみせる
- ・ 高齢者が豊かに活躍できる社会を予感させる
- ・ 超高齢社会の到来に、成熟することで得られる前向きな面を取り扱う
- ・ 「戦争」という武力解決から「対話」という平和的解決へ、ということを訴える
- ・ 前提として平和の祭典であることを忘れないようにする
- ・ 世界で起きている事の本質を、真摯に理解し実感できることを全世界と一緒にやる
- ・ メディアを介して、全世界が黙とうして、今起きている何かに思いをはせる

【開会式・閉会式で何を伝えるか】 2-2：日本・東京として発信すべきこと

日本を訪れる全ての人々を歓待する

被災地からの復興支援に対する感謝と
世界中の災害に見舞われた人々へ勇気を伝える

日本の歴史観を踏まえて、日本・東京の素晴らしさを伝える

○寄せられた御意見

- ・江戸の文化やイメージと、現在の東京をつなぐことができればよい
- ・東京1964大会から今回までに日本に起きた出来事を取り扱う
- ・日本古来の美意識のなかにある、性差を超える多様性を活用する
- ・日本がこれまで乗り越えてきた災害と復興の歴史を紹介する
- ・唯一の被爆国として平和を発信する
- ・復興のメッセージが、国内に向けての発信になりすぎないようにする
- ・世界中で自然災害に見舞われた人々に大きな感動と勇気を与え、復興の後押しをする
- ・絶えることなく続いている文化の中で日々暮らす豊かさを直感的に表現する
- ・日本の素晴らしさを誇示せず、ただ心地よい滞在体験に尽くせる余裕を持つ
- ・被災地の子供たちと一緒に体を動かし励ます
- ・被災者に対する心遣いを忘れない

【開会式・閉会式で何を伝えるか】 2-3：日本人らしさを大切に

日々様々な表情をみせる自然と共存している日本らしさを表現する

四季の色彩や色合いの変化を、日常生活に取り込む美意識を表す

江戸時代から続く独特の情緒の美しさを見せる

森羅万象を平等に慈しむ日本人の古来からの寛容さで

あらゆる多様性を受け入れてきた姿を表現する

○寄せられた御意見

- ・芽吹き、伸び、咲き、蒔く、植物が成長するサイクルのように、独自文化の成長や進化を捉え、開会式・閉会式自体の展開にも反映させる
- ・日本社会の特徴である安全、清潔、高度な合理性が、日本の地勢的特徴である天災とどの様に向き合い復興させてきたかを、楽しく伝える
- ・成熟した文化を伝える
- ・四季や二十四節気のように季節を細やかに分け、季節ごとの色彩や色合い、季節の移り変わりを感じながら、日常生活に取り込む美意識を表現する
- ・時間・空間における「間」や、日本画における「余白」など、無を通して華やかさを表現する日本人独特の美意識を伝える
- ・江戸時代の独特な色彩や、情緒やうつろい、当時の音など、江戸文化を通して東京を魅せる
- ・日本は多神教、アニミズムに基づく東西のわけ隔てない文化や宗教を取り込んできた
- ・日本の気候や風土が育んだ精神で、外来文化の本質や倫理観を上手にいいとこ取りしてきた
- ・日本人は考え方や行動にとらわれず、物事を円滑に滞りなく進めることができる
- ・八百万の神のように、森羅万象そこかしこに神様をみる無邪気な国民性を表現する
- ・混沌を混沌のまま受け入れる美学で、開会式・閉会式の会場の内外の境界を曖昧にすることができればよい
- ・技能の達成よりも人間の情緒、優しさや細やかさ、艶や華などに注目する視点も大事にする
- ・いかなるものとも戦わない「和」の精神。

【開会式・閉会式で何を伝えるか】 2-4：異なる分野をかけ合わせ、既成概念を破る

先進テクノロジーと伝統文化を組み合わせて未来の姿を描く

伝統あるものを、海外から入ってくるものや新しいものと融合し
独自に発展させていく力を表現する

障がいという個性をテクノロジーとかけ合わせ、新たな可能性を探る

テクノロジーやデザインやエンタテインメントを用いて
人々を分け隔てる既成概念を破る

○寄せられた御意見

- ・日本には、新しいことの中に旧きを見出す力がある
- ・近代以前の伝統文化を未来的な技術と組み合わせる
- ・海外からクールと捉えられる日本と、日本人が認める日本とを融合する
- ・渡来文化を独自に発展させることが日本の特徴である
- ・異種多様な者たちが出会っても、自らの意志や個性を活かしたまま、柔軟に融合し共鳴させることができる
- ・柔と剛、量と質、などの対となるコンセプトを、オリンピックとパラリンピックに対してそれぞれ与え、多様さを醸成するのもいいと思う
- ・テクノロジーをより感じさせたいのであれば、一見相対する文化や美の中にテクノロジーを完全に練り込み、隠しきるようにする
- ・伝統に科学を注入することで、本質的な汎用性を引き出し、その価値が再発見される
- ・スポーツと芸術の組み合わせ等、普段組み合わせないものを組み合わせてみるとよい

(次ページへ続く)

- ・VRなどのテクノロジーで競技参加の疑似体験でスポーツの普及に貢献できればよい
- ・テクノロジーを活用するのはいいが、スポーツの本質を変えないようにする
- ・革新を生み出したり、受け止めたりする感性は、基本の習得あってこそできる
- ・「形無し」ではなく「型破り」で表現する。それは型を身に着けた上でこそ発揮することができるものである
- ・目の前にあるものの形を変えるのではなく「活かす」ことを第一に考えることで、より自然を感じさせたり、誰もが振り返るような深い印象を残すことができる
- ・堅実ながらも後からユーモアを介して全世界の人が納得することができるようにする
- ・インパクトが得意とする目先の驚きや判り易さだけでなく、伝えるべきことを人の深いところに浸透定着させることができるとよい
- ・開会式・閉会式でのパフォーマンスはきっかけでしかなく、そのパフォーマンスを見た人がどのようにポジティブに変わるかが重要である
- ・障がい者用のギア（スポーツ用具や義肢・車椅子）に娯楽性やファッション性を加え、人々が憧れるスタイルを見せる
- ・パラリンピアンをカッコよく、クールに、感覚として共感、憧れる存在にみせる
- ・障がい者が単に個性や性格付けのひとつであると、ユーモアを持って伝えたい
- ・茶道や武道など日本の「道」（競争でなく、自分自身と向き合う姿勢を突き詰める末にたどり着く、至高の境地）を表現する
- ・伝統を体現できて初めて革新的な実験ができ、実験で得た新しいことを伝統に戻す
- ・海外からは最も前衛であると捉えられる、能のような古典で表現する
- ・近代以前の日本の伝統文化の文脈が、現代の問題を解決するヒントになるだろう
- ・オリンピック・パラリンピックという比類ない機会だからこそ、取り組める斬新なアイデアを実現したい
- ・生活の中の常識を、あえて非常識に表現するとよい
- ・従来しなかったアプローチを行うことで、できなかったことが実現するのではないか
- ・事前に考えていたもの以上のことが現場で起きるのも一種の革新であるだろう
- ・社会の様々な課題に対してソーシャルアクションにより対峙することを披露する機会
- ・競技を通じて、観客に与える感動に注目をする
- ・スポーツを好きな人も興味がない人も快く楽しめる開かれた開会式・閉会式だとよい
- ・聞こえる色、見える音などの障がい者ならではの感覚を伝えることができればよい
- ・障がいという「個性」が活躍し世界に貢献する姿を見せる
- ・障がい者だからこそできる動きや、人々の想像を超える凄さを表現する
- ・疑似的な体験によって、障がいのある方たちの新たな可能性への挑戦に対して深い理解を広く得る

【開会式・閉会式で何を伝えるか】 2-5：参加感・一体感の醸成

誰でも参加できる、日本の祭の神輿や踊りのように
開会式・閉会式を通じて世界中の多くの方とつながる機会を作る

皆が協力して、開会式・閉会式づくりに楽しく参加しながら
大会の理念を伝えることができる仕組みを作る

○寄せられた御意見

- ・誰でも参加ができる日本の祭のように、開会式・閉会式づくりに誰もが気軽に参加できる仕組みがあるとよい
- ・テレビで生中継を見るだけでなく、スマートフォンを使って世界中の人達が主体的に参加できる仕組みを作れるとよい
- ・ソーシャルメディアを介して、世界中の誰もが、社会への共通のコンセプトへの賛意を表明できればよい
- ・日本中の子供たちが、同時に開会式・閉会式の体験を共有できる仕組みがあるとよい
- ・大会の準備・運営過程で、多くの人に自らの得意分野で参加してもらい、自分事として感じてもらえればよい
- ・開会式・閉会式場で、観客全員が心をひとつにして、大会を成功させようとする意志を共有できる仕組みをつくる。
- ・観覧者全員で、手をつなぎ全世界の友情を確かめる
- ・選手と観客とが一体になる振りや動作を取り入れる
- ・競技大会中にも開会式・閉会式の準備イベントを続けて、即興で誰もが参加できるようにし、それが次の式典に反映される仕組みがあるとよい
- ・参加者が協力して、戦時の鎮魂から平和な未来創造を祈る機会があるとよい

【開会式・閉会式で何を伝えるか】 2-6：貢献・レガシー

**開会式・閉会式で伝えるメッセージが未来の豊かさを想起させ
新たな人材や若い可能性を発掘し育てるレガシーとなる**

**お互いの個性を共に生かし、助け合うという考えを
社会に浸透させることにより共生社会に近づく**

○寄せられた御意見

- ・開会式・閉会式の準備過程で、従来であれば出会うことのなかった多種多様な人材が出会い、次世代の交流へと引き継ぐ機会があるとよい
- ・開会式・閉会式を若者の才能を発掘し、新しいことに挑戦させ、成長する重要な経験の機会とする
- ・日本は費用をかけなくても新たな可能性を示すことができることをレガシーとしたい
- ・小さい子供たちの印象に残るような開会式・閉会式にしたい
- ・疑似(VR)的な競技体験や、運営への参加体験といった行動を通じて、参加意識を啓発できるとよい
- ・2020年に東京で開催した事実を、その後の観光資源として脈々と受け継いでいく
- ・目に見えないテクノロジーを判り易く実感させる
- ・パラリンピック大会の制作・運営を通じて、大会後も障がい者の文化活動を支援し続けるという社会を作る
- ・思いやりや助け合い等の人の心を軽視し、合理性・効率性を求めすぎると、差別や偏重につながることもある
- ・障がい者の芸術表現の意義や素晴らしさを残す
- ・共生社会とは、障がい者を助けて共に生きる社会ではなく、お互いを認め合い助け合うことで「共に生かす」社会である。そのような社会づくりを目指すこの重要性をメッセージにする

東京2020オリンピック・パラリンピックの開会式・閉会式で世界に伝えたい日本・東京のいいところやアピールしたいことについて、国民の皆様より多くの御意見をいただいた。

✓ キレイで安全

道路にゴミがあまりない。落とした財布などが返ってくる。ベンチなどに荷物を置いたままにしても、盗まれない。(10代)

✓ 交通網・様々な文化が混ざっている。

1本逃しても、またすぐに次の電車がくる。多くの場所まで広がっており、短時間で遠くまで行ける。アニメだけでなく、食べ物(和菓子など)いろんな日本の文化が集結している。また、海外の最先端のものも入ってくるため、日本の古くから引き継いできた文化と外国の最先端のものが入り混ざっている。(20代)

✓ わびさび

日本にしかない上品な雰囲気だから(20代)

✓ トイレ・サービスの良さ・街がキレイ

技術がすごいから。サービスに関しては世界一だから。町のキレイさも世界TOP10には入ると思うから。(30代)

✓ 列に並ぶところ

震災の時とかに並ぶことでスムーズにいったから。(10代)

✓ 健康に良い食事、海に囲まれている、方言が可愛い

昨日ドラマを見て、方言とか、いのしし鍋とか良いなと思った。(10代)

✓ 水道水が飲める

海外に在住していたときに水道水は飲料用ではなかったため不便だった。(20代)

✓ 日本のもつ最新技術を世界にアピールしてほしい

次世代をささえるAI、Iot、5G、ドローン、VR、AR自動運転を広く活用し、日本の技術力をスタジアムいっぱいに表示してほしい。(40代)

✓ 集団行動

皆で協調しあい団結する力がすごいから。(10代)

✓ 人の親切さ・礼儀

日本独自の文化だと思うから。そして、日本共通の意識だと思うから(10代)

✓ 二千年以上続く日本の輪と伝統と絆

古代の人が長い歴史をかけて継承してきた伝統・文化を世界中の人や若い人に伝承することが必要である。(10代)

✓ 男子新体操でのパフォーマンス

男子新体操です。日本発祥のスポーツであり、日本が世界に誇ることができるから。(40代)

(次ページへ続く)

【組織委員会HP意見投稿・6/24大学連携イベントアンケート】

✓ トップダンサーたち

日本のダンスは、昔は欧米の後を追っているだけでしたが、今では欧米とは一線を画すものとなっており、日本独自の技術で新しいダンスが生まれています。(30代)

✓ サムライ・ニンジャだけではない！

世界の人が抱いている日本に対する固定観念を打破し、日本が新たに生まれ変わることをアピールする。(20代)

✓ 他国の文化を取り込み、そこから日本特有の文化を生み出す

日本は昔から異文化と交流・吸収し、独特の文化を作ってきた。(20代)

✓ 温泉

資源は少ない国と言われてますが、人を元気にする温泉は日本全国にももちろん東京だってあります！！スポーツの後は、日本の文化の温泉を！！(30代)

✓ コンビニ

おいしい・べんり(20代)

✓ ごはんがおいしい・治安がいい

白米、抹茶、味噌汁おいしいです。日本人は落し物を拾ったら、多くの人がポリスに届ける(10代)

✓ 接客態度がバツグン！丁寧な対応力！

外国でのお店での接客に比べて、日本の店では「いらっしゃいませ」と「ありがとうございます」を徹底しているから(20代)

✓ 規範意識の高さ

時間に対して厳格な人々が多いことが印象的だとよく言われるので(20代)

✓ 街それぞれの個性が豊か

個人の個性が発揮できるから(10代)

✓ 小学生が一人で電車通学できるほど、治安がいい。

外国では考えられないようなことも治安が良い日本ではできるから。(10代)

✓ 風流があるところ

「風流」は日本独特の文化だと思うから。(20代)

✓ KAWAII／日本語（オノマトペ）

日本発 世界共通語・日本独特の表現がたくさんある(20代)

✓ 自動販売機設置率が高い

オリンピックは夏に行われるので脱水症状対策になる(20代)

✓ 日本の工芸品の良さについて

日本人の生活に根差し、暮らしを彩ってきた工芸品は、日本人の美意識を世界に強くアピールするであらう。(50代)

✓ 漢字、カタカナ、ひらがな、アルファベット、絵文字の5種の文字の使い分け

様々な日本文化は、この沢山の文字の使い分けに表れている、日本人の脳と身体の構造（右脳と左脳、記号認識と象徴認識など）に全て起因していると思うので。(50代)

✓ 日本全国が一丸となって盛り上がっている姿勢

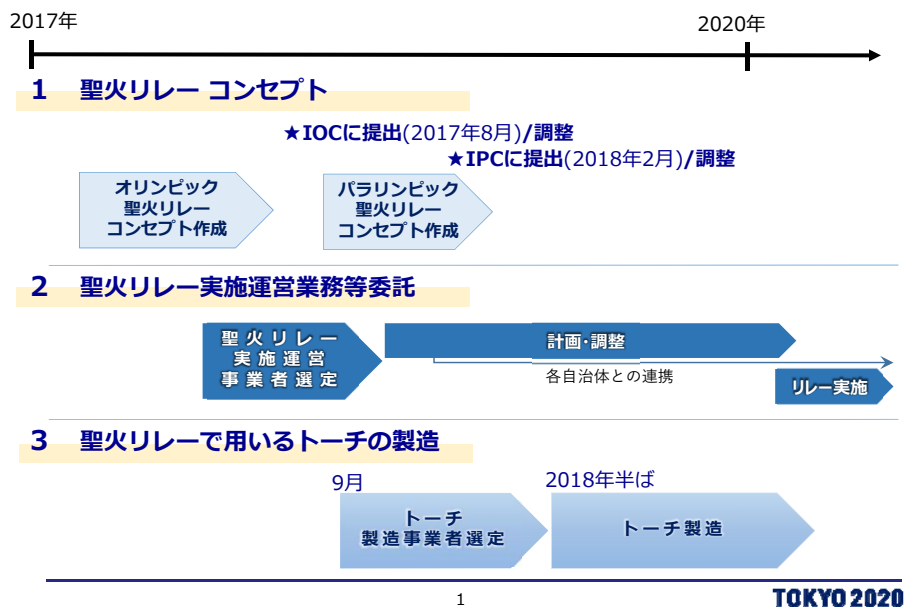
東京だけの盛り上がりではなく、日本全体の盛り上がりのスタート地点としての開会式を作るべき。(30代)



資料2

聖火リレーに関する今後の取組について

聖火リレーに関する今後のスケジュール（予定）



【決議】 聖火リレー実施運営業務等委託について

1 概要

オリンピック・パラリンピック聖火リレーの実施運営等に係る委託者を、プロポーザル方式により9月頃までに選定

2 主な委託内容

- 聖火リレーに係るガイドラインの作成及び自治体等との調整に係る支援
- 聖火リレーの計画・運営支援、聖火ランナー対応
- 聖火到着イベント(セレブレーション)等の具体的計画・運営
- ロジスティクス、広報、その他技術的事項など必要となる業務



3 審査方法

- 9月中旬頃に、外部有識者を含めた審査会を実施
- 参加資格の確認と事業計画及びスケジュールの提案等のプレゼンテーション審査を行う。

4 契約方法

- 2021年2月末までを契約期間とした基本契約を締結
- 業務の進捗に応じて、具体的な業務内容に関する年度ごとの個別契約を締結

5 スケジュール (2017年)

7月28日	公表開始
8月22日	公募への参加申込締切
9月中旬	審査会
9月下旬	理事会による承認を経て委託事業者決定
10月下旬	委託契約の締結

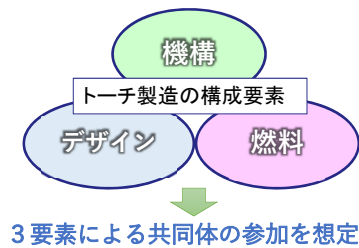
【報告】聖火リレーで用いるトーチの調達について

今秋より、デザインビルド方式によるコンペを実施し、 デザインから製造を一括して担当する事業者を選定する。

デザインビルド方式：デザイナー・エンジニア・製造者がチームを組み、デザインから製造までを一括的に請け負う方式。トーチのデザイン性、安全性、製造能力を担保するために、デザインビルド方式により実施する。

トーチ事業者選定の概要（予定）

- 1 事業者の選定時期
2017年9月末～2018年中旬
*ただし、デザインの発表は過去大会同様、大会1年前を想定。
- 2 参加資格
デザイナー・エンジニア・製造者による
共同事業体の参加を前提とする。
- 3 トーチ製造本数
1万本以上
- 4 その他
詳細については9月の理事会で付議予定





選手村宿泊棟・商業棟の協定締結について

選手村宿泊棟・商業棟の各協定について

選手村宿泊棟及び商業棟の着実な整備をはかるため、平成29年6月12日の本理事会での決議に基づき、基本協定及び整備に必要な各種協定の締結を行ったので報告する。

(1)基本協定→ 初北° ッカ・ハ° リ北° ッカ準備局/東京都都市整備局・組織委員会・特定建築者の4者間で宿泊棟・商業棟に関する施工や費用の役割分担等を定める

主な内容

初北° ッカ・ハ° リ北° ッカ準備局：大会時に選手村として使用される部分を組織委員会へ転貸
宿泊棟・商業棟の設計・施工等に関し予算の範囲内で費用負担
組織委員会：宿泊棟・商業棟の設計・施工等を特定建築者に行わせる
締結日：平成29年7月7日

(2)設計協定(その2)

業務内容：宿泊棟の選手村仕様の設計業務（平成29年度分）
昨年度の設計協定（その1）の成果を受けて詳細設計を実施
業務期間：契約締結日から平成29年11月30日まで
締結日：平成29年7月21日

(3)施工及び工事監理基本協定

業務内容：宿泊棟を選手村として使用するための内装等の新設及び解体工事
設計にもとづく適正な施工を担保するための工事監理
業務期間：平成30年1月～平成31年12月31日(新設)
平成33年1月～平成34年 9月30日(解体)
締結日：平成29年7月7日

【 施設整備の概要-全体鳥瞰パース 】

所 在：中央区晴海4・5丁目
敷地面積：約4.4ha



※東京都オリンピック・パラリンピック準備局のモデルプランに追記

TOKYO 2020



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 TOKYO 2020 寄付金のご案内



**あなたのエールが
東京2020大会の
力になります**



東京2020大会の成功に向け、東京2020組織委員会では、皆様からのご寄付を募っております。
お寄せいただいたご寄付は、東京2020大会の準備・運営に活用させていただきます。

▶ 詳しくはウラ面またはウェブサイトをご参照ください。

<http://tokyo2020.jp/jp/get-involved/donation/>



寄付の方法

銀行振込にて、ご寄付を申し受けます。

お振込先

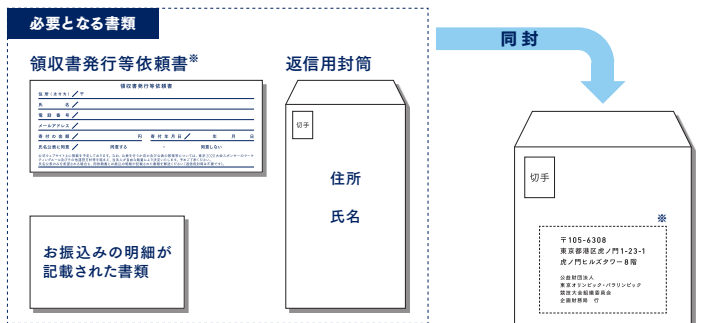
口座名義	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 (コウエキザイダンホウジントウキョウオリンピック・パラリンピックキョウギタイカイソシキインカイ)	
銀行支店名	みずほ銀行 東京都庁出張所(777)	三井住友銀行 東京公務部(096)
口座種別・番号	普通預金 1064404	普通預金 175088

- ▶ 銀行窓口・ATM・インターネットバンキングをご利用ください。
- ▶ 2,000円(所得控除の適用額以上)からのご寄付をお願いします。
- ▶ 振込手数料は、寄付者様のご負担となります。
- ▶ **みずほ銀行、三井住友銀行の窓口・ATM・インターネットバンキングをご利用頂いた場合、他の金融機関等のサービスを利用された場合に比べて、手数料がお得になります。**
詳しくは、公式ウェブサイトをご確認ください。

領収書が必要な場合

「**領収書発行等依頼書***」及び**必要書類**を東京2020組織委員会宛てに郵送ください。

なお、同封する返信用封筒には、返信先の記入及び切手の貼付にご協力ください。



※領収書発行依頼書・郵送先は、本紙下部を切り取ってお使いください。

注意事項

1. 個人情報の取扱い

当法人は、寄付に際して知り得た寄付者の氏名、年齢、住所その他の個人情報を、寄付の受入れ、取扱い、各種連絡等に係る事務のほか、2020年に開催される第32回オリンピック競技大会及び東京2020パラリンピック競技大会の準備、運営及びこれに関連する情報提供等の目的で利用します。

2. マーケティング権の不存在

寄付者は、寄付行為におけるマーケティング権の不存在を認め、次に掲げる行為又はそのように受け取られるおそれのある行為を行ってはなりません。

- ① 寄付者若しくはその関係者等(以下「寄付者等」という。)又はその活動、商品若しくはサービス等と、本大会又はオリンピックムーブメントとを関連付け、又は関連付けようとする行為
- ② 寄付者等又はその活動、商品若しくはサービス等が、当法人、国際オリンピック委員会、国際パラリンピック委員会、日本オリンピック委員会又は日本パラリンピック委員会のいずれかの公式のものである旨、いづれかにより選ばれ、承認され、保証を受け、推奨され、又は同意を得たものである旨、その他これらに類する事実を表明し、又は表明しようとする行為
- ③ 寄付の事実について、寄付者等に係る広告宣伝の目的でこれを公表し、又は公表しようとする行為
- ④ 企業、法人、団体については、①から③以外の目的で寄付の事実について公表する場合には、必ず当法人の承認を得ること。

3. 反社会的勢力の排除

反社会的勢力、その他寄付金の受領が適切でないと思われるご寄付は、お受けできません。

税制上の優遇措置

この寄付は下記のような税制上の優遇措置が受けられます。

法人 法人税法第37条第3項第2号の指定寄付金として、寄付金の全額を損金算入することができます。

所得控除 所得税法第78条第2項第2号の特定寄付金として、所得控除を受けることができます。

個人 寄付金合計-2,000円=寄付金控除額
※寄付金合計の上限は、所得金額の40%です。

個人住民税 お住まいの自治体が、当法人を税制優遇の対象としている場合には、確定申告をすることにより、個人住民税の控除を受けることができます。

▶ 詳しくは公式ウェブサイトをご確認ください。

問い合わせ先

▶ 東京2020 お問い合わせ窓口

▶ 受付時間

0570-09-2020

平日 9:00 ~ 17:00
[土日祝、年末年始除く]

組織委員会公式ウェブサイト

<http://tokyo2020.jp/jp/get-involved/donation/>

領収書発行等依頼書

住所(送付先) / 〒 _____

氏 名 / _____

電話番号 / _____

メールアドレス / _____

寄付の金額 / _____ 円 寄付年月日 / _____ 年 月 日

氏名公表に同意 / _____ 同意する _____ 同意しない _____

公式ウェブサイト上に掲載を予定しております。なお、公表を行うか否か及び公表の態様等については、東京2020大会スポンサーのマーケティングルール及びその他運営方針等を踏まえ、当法人が自由な裁量により決定いたします。予めご了承ください。
氏名公表のみを希望される場合も、同依頼書とお振込みの明細が記載された書類を郵送ください(返信用封筒は不要です)。

〒105-6308

東京都港区虎ノ門
1-23-1

虎ノ門ヒルズ森タワー8階

公益財団法人
東京オリンピック・パラリンピック
競技大会組織委員会
企画財務局 行



選手村ビレッジプラザにおける 使用木材の公募実施について

1. 報告事項

- 使用木材の後利用スキームについて
- 使用木材の全国公募の実施について

2. ビレッジプラザ設計の与条件

- ビレッジプラザに求められる機能
入村式典や選手・メディアの交流、利便施設
- 設え
日本の伝統・文化を体感できるよう国産木材を使用
- コスト縮減
移転・再構築等を前提として、コスト縮減と持続可能性を実現

3. 木材使用の目標

オールジャパンによる大会の盛り上げを期待

- 全国各地から国産木材の使用要請
- 各地域の木材を使用することにより多様性と調和を表現

移転・再構築を通じて持続可能性を実現

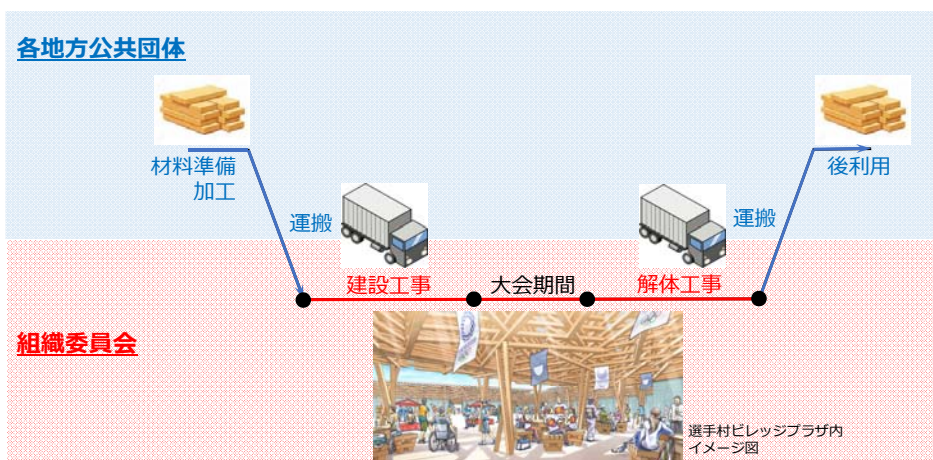
- 国産木材の使用により森林の保全に寄与
- 大会後のレガシーとして木材を活用

2

TOKYO 2020

4. 使用木材の後利用スキーム

- 組織委員会が供給を申し出た各地方公共団体から国産木材を無償にて借り受け
- 組織委員会がビレッジプラザを建設
- 大会後に各地方公共団体が木材を持ち帰り、レガシーとして活用



3

TOKYO 2020

5. 公募の概要

- 事業名 日本木材活用リレー
～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～
- 応募資格 全国の地方公共団体（道府県及び区市町村）
- 募集数 45地方公共団体程度・計約2,000㎡
※被災地等については申し出により優先的に対応
- 公募種別 ①棟単位で提供する地方公共団体
5団体程度を募集（各棟約100～150㎡）
応募者多数の場合、対象棟ごとに抽選を実施
②部材単位で提供する地方公共団体
1口（10㎡）以上として40団体程度を募集
応募者多数の場合、応募口数に応じて事業協力者を決定
- 協力地方公共団体の主な特典
 - ・ 協力地方公共団体であることの公表イベント
 - ・ 協力地方公共団体の「東京2020参画プログラム」の適用支援

4

TOKYO 2020

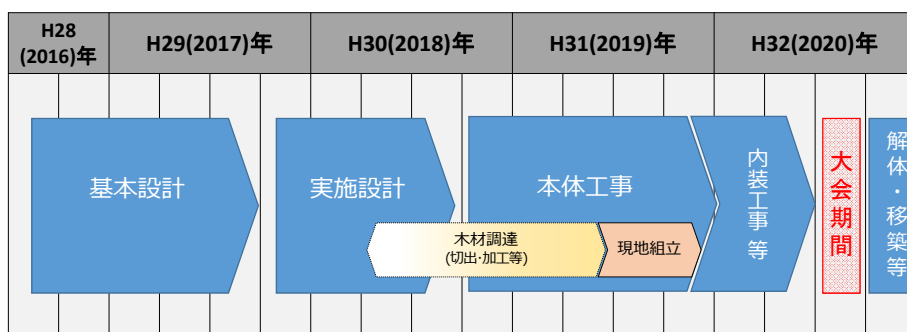
6. 公募のスケジュール

- ・ 7月24日 理事会
- ・ 7月25日 公募要項の公表
- ・ 8月4日～10日 問合せ受付期間
- ・ 9月11日～15日 地方公共団体からの応募受付期間
- ・ 9月20日 協力公共団体の内定
(応募多数の場合に抽選を実施)
- ・ 10月上旬 協力地方公共団体の決定
- ・ 11月頃 協力地方公共団体の公表イベント(予定)

5

TOKYO 2020

7. 全体スケジュール





東京2020フェスティバル（仮称）検討の開始について

1. 検討の背景について

- 文化オリンピックの集大成として行われたロンドン2012フェスティバルは、ロンドン大会成功に大きく貢献したと評価されている。
- 大会の3週間前から、イギリス・ロンドンをアピールする多くの良質な文化芸術イベントを実施し、国内外にオリンピック・パラリンピックへの期待感を高める情報を発信し、大会の盛り上げにつなげた。
- 東京大会においても、東京2020大会の直前から「東京2020フェスティバル（仮称）」を実施することとし、フェスティバルの方向性について、間もなく大会の3年前を迎える、この時期に検討を開始した。

2. ロンドン2012大会のフェスティバル



名称	ロンドン2012フェスティバル
会期	2012年6月21日～9月9日（12週間）
ビジョン	Once in a Lifetime（一生に一度きり）
件数	33,631アクティビティ ※件数は、事業数・イベント数ではなく、「activity」の数である。開催日数や開催場所により、延べカウントされている。 【参考】 文化オリンピック全体：117,717アクティビティ（648プロジェクト）
参加人数	一般：2,020万人（うち1,680万人は無料参加） アーティスト：25,000人（うち1,299人は新進アーティスト、806人は障がいを持つアーティスト）

【参考資料】

- ・ London 2012 Cultural Olympiad Evaluation : Beatriz Garcia (The Institute of Cultural Capital) ほか
- ・ ロンドン2012大会——文化プログラムの全国展開はどのように行われたのか：吉本光宏（ニッセイ基礎研究所）

2. ロンドン2012大会のフェスティバル



<代表的なプログラム>

Piccadilly Circus Circus

ロンドンの繁華街を中心に位置するピカデリー・サーカスの広場を舞台に、サーカスを行うイベント。1945年のヨーロッパ戦勝記念日以来の試みとしてピカデリーサーカス周辺の一般道を封鎖し、17カ国240人を超えるサーカス・アーティスト（空中曲芸師、ブランコ、フラフープ、ジャグラー、綱渡りなど）が出演。

なお、このプロジェクトは会場が混雑しすぎるという懸念があったため、事前告知なしで実施された。



UNLIMITED

2010年～11年にかけて行われた3度の公募を経て、障害のあるアーティストや彼らが所属する芸術団体に29の新しい作品制作が委託される。

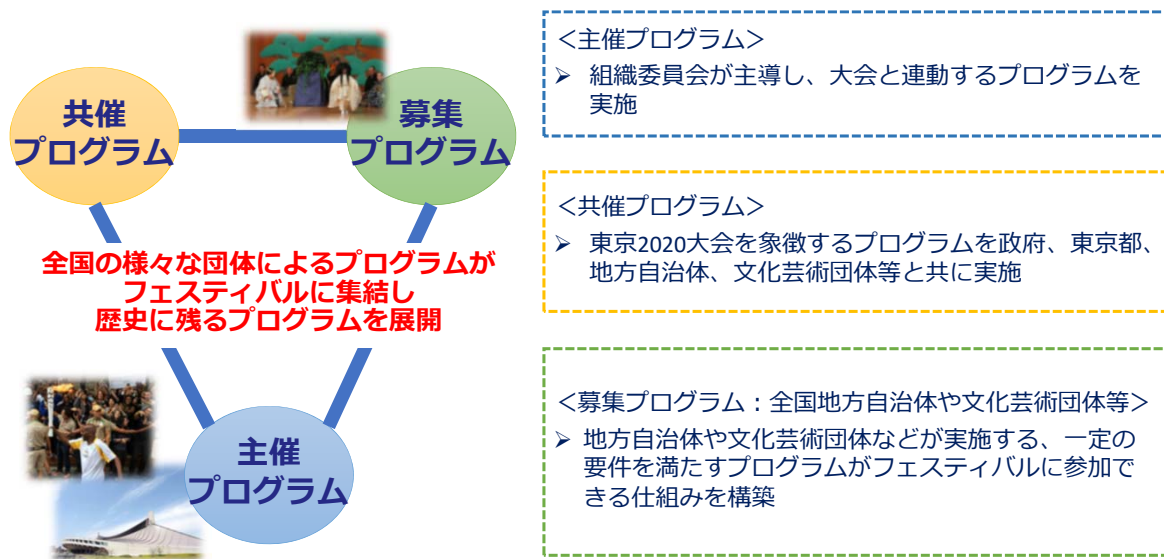
これまでにない規模で障害のあるアーティストによる斬新かつ意欲的な作品の数々が英国内外で紹介され、プログラムは障害のあるアーティストによる優れた芸術活動に対する認知度の向上と、アーティストの活躍の場の拡大に大きく貢献した。



3. 東京2020フェスティバル（仮称）の概要

期間	2020年4月頃～9月頃
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 聖火リレーと連携しながら、全国各地で文化プログラムを実施 ● 東京都内を中心に、様々な団体が祝祭感のあふれるプログラムを実施し、大会に向けた機運を高める ● 歴史に残る大規模なプログラムを展開し、国内外に日本文化の魅力を発信する ● 全国の自治体や文化芸術団体等からもプログラムを募集し、期間中の様々な場所でプログラムを展開する ● 各国の政府、文化芸術団体、アーティスト等と連携し、文化を通じた国際交流を進める

4. 事業体系



5. 主体ごとのプログラムの方向性（イメージ）

主体	プログラムの方向性
組織委員会	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 大会と連動するプログラムを中心に実施（※） <ul style="list-style-type: none"> ✓ 東京2020大会を象徴する歴史に残る大規模プログラム ✓ 聖火リレー等、大会イベントと連携したプログラム ✓ オリンピックとパラリンピックが融合したプログラム（障がい者芸術等） ✓ I O C / I P C との連携プログラム（国際交流）
政府	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 日本文化全体を活性化するためのプログラムを推進
東京都	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 東京都が大会に向けて実施する様々な文化プログラムのうち、多様な文化芸術等を国内外に P R するプログラムなど、フェスティバルのコンセプトに合致するものを実施
地方自治体・文化芸術団体等	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 東京2020大会を機に、多様な文化芸術等を国内外に P R するプログラムを推進

※それぞれのプログラムは参画プログラムの各分野（スポーツ、教育、テクノロジー等）とも連動しながら検討。実施に関しては、今後の予算状況による。

6. フェスティバルの検討体制について

- 組織委員会は、これまで、東京2020文化オリンピックアードについて、文化・教育委員会を中心に議論を重ねてきた。
- 文化オリンピックアードの集大成となる東京2020フェスティバル（仮称）についても、文化・教育委員会の文化関係のメンバーを中心に検討を進めていく。
- フェスティバルの検討にあたっては、同委員会の委員長である青柳正規 東京大学名誉教授に総合プロデューサーの役割を担って頂くとともに、文化事業の実施・遂行に精通したチームがサポートする。
- プログラムの検討にあたっては、政府、東京都、地方自治体、文化芸術団体等と一体となって進めていく 必要があり、実務的な連携も図っていく。

7. 文化・教育委員会メンバー（文化関係）

※五十音順、敬称略

青柳 正規
東京大学名誉教授



秋元 雄史
東京藝術大学大学
美術館館長



©Chisato Hikita

浅葉 克己
アートディレクター、
桑沢デザイン研究所所長



池坊 専好
華道家元池坊次期家元



市川 海老蔵
歌舞伎俳優



今中 博之
社会福祉法人素王会理事長、
アトリエインカーブクリエイティブディレクター



EXILE HIRO
アーティスト、プロ
デューサー



小山 久美
昭和音楽大学短期
大学部教授



織作 峰子
大阪芸術大学教授



桂 文枝
落語家



絹谷 幸二
東京芸術大学名誉
教授、文化功労者



コシノジュンコ
デザイナー



8

TOKYO 2020

7. 文化・教育委員会メンバー（文化関係）

※五十音順、敬称略

篠田 信子
富良野メセナ協会代表、喫茶・ギャラリーあかなら代表、C-プランニング・フラノ代表



銭谷 真美
東京国立博物館長



セーラ・マリ・カミングス
株式会社文化事業部代表取締役、NPO法人桶仕込み保存会代表理事、利酒師



千 宗室
茶道裏千家家元



野村 萬斎
狂言師



松下 功
東京芸術大学副学長



宮田 慶子
新国立劇場演劇芸術監督



村田 吉弘
特定非営利活動法人日本料理アカデミー理事長、菊乃井主人



山崎 貴
映画監督



吉本 光宏
株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事



9

TOKYO 2020



都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト（進捗状況）

■本プロジェクトの現状

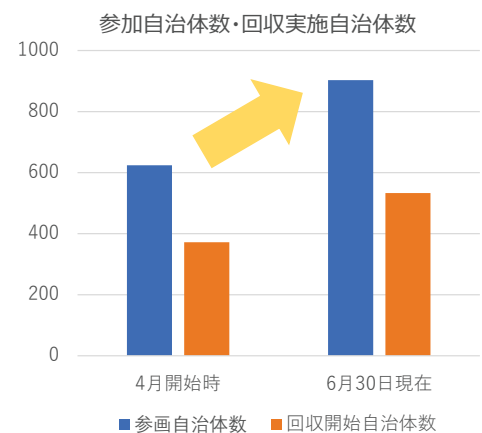
- ▶ 「オリンピック・パラリンピック史上初」の斬新な取組に国内外で大きな反響
- ▶ BBCやロイターなど、海外メディアからも高い関心
- ▶ 参加自治体も順調に増加
- ▶ 一方で回収体制の構築は未だ途上、回収もこれから本格化

■ 参画自治体数 4月開始時： 624自治体
 7月14日現在： 967自治体
 ※小型家電リサイクルを実施する全国1300自治体の約7割が参加

■ 回収開始自治体数 4月開始時： 372自治体
 7月14日現在： 682自治体

■ NTTドコモ 全国2400店舗で実施中

■ 回収状況 自治体回収：74自治体 約106t
 (4-5月累計) (他の回収実施自治体：集積中)
 NTTドコモ：約53万台



今後の取組み

一層の広報活動の実施
 全国フラッグツアー、参画プログラム等の各種イベントの機会を活用

■各共催機関の取組

共催機関や参加地方自治体も様々な活動を展開中

NTTドコモ	東京都
<ul style="list-style-type: none"> ・感謝カードの提供（全店舗） ・小学校でのリサイクル授業を通じた周知 ・各種イベントでの回収ボックスの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎内での回収ボックス設置（回収台数4万台突破） ・フラッグツアー等、都主催イベントでの回収ボックス設置
日本環境衛生センター・環境省	参加地方自治体
<ul style="list-style-type: none"> ・ロゴのマグネット（回収ボックスへの貼付用）を参加自治体に配布 ・全国の自治体に簡易回収ボックス配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・回収ボックスの設置 ・宅配による回収 ・広報誌への掲載、イベントの告知 ・首長による感謝カード作成、のぼり掲出



東京都：メダル協力ボックス

今後の取組み

共催機関と連携し、回収イベント等で、より効率的、効果的に小型家電の回収を展開

2

■組織委員会の取組み：各会議・イベントの機会を活用した積極的な広報・PR展開

■ 回収スタートイベント (4/1)



山田拓朗 競泳 パラリンピック競泳メダリスト（リオ）
松田丈志 競泳 オリンピック大会連続メダリスト

■ IPCプロジェクトレビュー (5/11)



IPC：クレイグ・スベンス メディア・コミュニケーション担当ディレクター、
ハビエル・コンダレス CEO

■ ジャパンオープン2017 (5/19)



競泳 英国代表：アビー・ウッド、ベンジャミン・ブラッド
競泳 日本代表：萩野公介、清水咲子
江東区 区長 山崎 李明

■ ジャパンパラ ウィルチェアラグビー (5/27)



米国代表：Jeff Butler、Ernie Chun

■ アスリート参加 (6/7)



羽賀 能之介 柔道/男子100kg級

■ 東京2020学園祭 (6/24)



イベント出演大学生

■ IOC 調整委員会 (6/28)



カースティ・コベントリー IOC委員 競泳メダリスト

■ アスリート参加 (7/6)



大岩義明 総合馬術日本代表

■ 各種専門委員会 (7/11~14)



第8回アスリート委員会

3



TSP(Ticketing System & Service Provider) 選定について

1. 目的

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のチケットを販売するためのチケットティングシステム & サービスオペレーションを提供する業務委託事業者（TSP）の選定を行う

2. 提案依頼業務の内容

- ・ 必須提案依頼：チケットティングシステムの開発及び運用・チケットティングオペレーション業務の推進
- ・ 任意提案依頼：CRMとチケットプロモーションの企画策定並びに実施

3. 入札方式

条件付一般競争入札（総合評価方式）にて行う

4. 契約予定期間

契約確定日の翌日～2020年12月31日(予定)

5. 選定スケジュール

内 容	日 付
(1) 案件公表期間	2017年6月16日（金）から6月27日（火）17時まで
(2) 参加申請受付期間	同上
(3) RFP（提案依頼書）の英語版のみ送付	2017年6月21日（水）から6月28日（水）の間
(4) 質問書の受付締切	2017年7月5日（水）17時まで
(5) 質問書の回答	2017年7月14日（金）
(6) （該当者のみ）辞退届の提出	2017年7月25日（火）
(7) TSP に関する提案依頼書の企画提案書の提出（必須）	2017年7月31日（月）17時
(8) CRM、プロモーションに関する提案依頼書の企画提案書の提出（任意）	2017年8月21日（月）17時
(9) 審査（プレゼンテーション）	2017年8月28日（月）から9月1日（金）の間（予定）
(10) 審査結果通知	2017年9月上旬（予定）

今後のチケット팅の主な予定	日 付
システム開発期間	2017年10月～2018年初旬
システム販売前テスト運用期間	2018年初旬～2018年夏
チケット販売開始（予定）	2018年夏～2019年初旬

6. 参加資格

以下の（1）～（4）の条件を満たしている事業者のみが本業務を受託できることとする。

- (1) オリンピック・パラリンピック大会または、サッカーワールドカップ等の国際大会スポーツ興行チケット業務の経験
- (2) 日本語ならびに英語での業務進行が可能であること
- (3) 過去にオリンピック憲章に反する行為や、アンブッシュマーケティング、不正・高額転売等の業務に関わっていないこと
- (4) 秘密保持誓約書の締結が可能であること

※ （1）～（2）に関しては企業共同体として、条件を満たせば参加可能



第4回IOC調整委員会会議 及び IOC理事会について

1

第4回IOC調整委員会会議

会議の概要

- 1 開催日 平成29年6月28日（水）～30日（金）
- 2 場 所 虎ノ門オフィス
- 3 出席者

IOC側 コーツIOC副会長・調整委員会委員長、ギラディ同副委員長、同委員、
スタッフ

東京側 森会長、遠藤会長代行、
河野副会長、竹田副会長、山脇副会長、山本副会長、
武藤事務総長、布村副事務総長、佐藤副事務総長、
古宮副事務総長、坂上副事務総長
東京都、JOC、JPC、政府 ほか



2

会議の概要（続き）

4 内容 東京大会の進捗についてのプレゼン及び質疑応答 等

<6月28日（水）>

○全体プレゼンテーション

組織体制／財務／会場／コミュニケーション／エンゲージメント／オリンピックチャンネル

○会場視察

新国立競技場／選手村／オリンピックアクアティクスセンター／

青海アーバンスポーツ会場

<6月29日（木）>

○ワーキンググループ

マーケティングパートナー／アスリート&NOC／観客／スポーツ&IF／メディア／

オリンピックファミリー／パラリンピック競技大会／アーバンクラスター

<6月30日（金）>

○クロージングセッション

【参考】第32回オリンピック競技大会（2020／東京）調整委員会メンバー

委員長	ジョン・コーツ
副委員長	アレックス・ギラディ
IOCオリンピック競技大会 エグゼクティブ・ディレクター	クリストフ・デュビ
委員	アニタ・デフランツ
	ロビン・ミッチェル
	ギー・ドリュエ
	イレーナ・シェピンスカ
	ユー・ツァイチン（于再清）
	ニコル・ホーベルツ
	リディア・ヌセケラ
	ハブ・グメル
	ファイサル・アル・フセイン王子
	カースティ・コベントリー
	ミカエラ・コジャンコジャウォルスキ
	カルロス・ヌズマン
	セバスチャン・コー
	アンドリュー・パーソンズ
	フランチェスコ・リッチ・ビッティ

IOC理事会

会議の概要

- 1 開催日 2017年7月9日（日）～10日（月）
※ 東京のプレゼンは7月10日

- 2 場 所 ローザンヌ（スイス）
※ 東京のプレゼンは、本会虎ノ門オフィスから
テレビ会議システムを通じて実施

- 3 出席者
東京側：武藤総長、布村副事務総長、中村CFO、
小野スポークスパーソン、村里局長、室伏局長
IOC側：バッハ会長、コーツ副会長、IOC理事

5

TOKYO 2020

会議の概要（続き）

- 4 内 容 東京大会の進捗についてのプレゼン及び質疑応答 等
スポーツ / 会場整備 / 財務 / 観客の経験 /
エンゲージメント

- 5 サッカー会場の追加
「茨城カシマスタジアム」をサッカーの追加会場としてIOCに提案し、
承認を得た。

6

TOKYO 2020



共同実施事業管理委員会（仮称）について

共同実施事業管理委員会（仮称）について

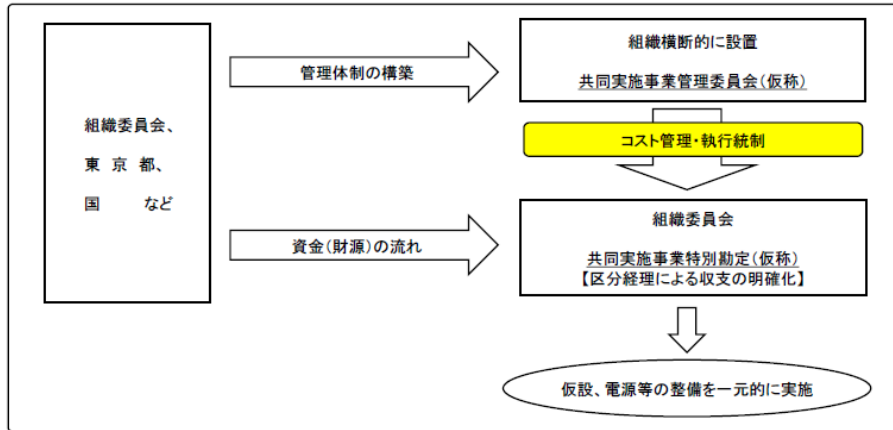
- 東京都、国、組織委、関係自治体による大枠合意（5月31日）
共同で実施する事業について
 - ⇒コスト管理と執行統制の強化を図るため、共同実施事業管理委員会を設置
 - ⇒一元的に執行するため、共同実施事業特別勘定を設置
- ※東京都、国、組織委で設置に向けて協議中

- 上記の業務を担うため、8月1日付で共同実施事業管理部を組織委内に新設
 - ・共同実施事業管理委員会の開催事務及び関係者調整
 - ・明確で透明度の高い区分経理

【参考】大会準備における進行管理の強化

○ コスト管理・執行統制の強化、区分経理の実施

公費等が投入され、共同で実施する事業については、組織委員会、東京都、国、関係自治体により、共同実施事業管理委員会（仮称）を設置し、コスト管理と執行統制の強化を図る。
その上で、これらの事業を一元的に執行するため、組織委員会に特別勘定を設置し、区分経理を行う。



【出所】大枠合意資料（2017年5月31日）

調達契約書の公表について

1. 制定趣旨

- (1) Tokyo2020 における調達手続の透明性確保。
- (2) 迅速な調達手続に資する。

2. 契約書の種類

- ①物品購入契約書、②業務委託契約書（請負型）、
- ③業務委託契約書（役務提供型）、④設計業務委託契約書、
- ⑤工事請負契約書、⑥工事監理業務委託契約書、⑦物品借入契約書

3. 内容

東京都の標準契約書をベースに、各契約書間における差異を調整し、併せて、東京 2020 組織委員会の調達において必要な項目を追加した。

【主な追加・修正項目】

- ・ 持続可能性の確保
→法令等遵守、調達コード遵守、状況報告、改善の取組
- ・ 秘密保持
→秘密情報の範囲を東京 2020 組織委員会のみでなく、IOC、IPC 等の関係機関にまで拡大
- ・ 談合その他不正行為による解除、反社会勢力の排除
- ・ アンブッシュマーケティングの禁止

4. 調達契約書本文

資料 17 のとおり。



アクション&レガシープラン2017

アクション&レガシープラン2017 概要




全体概要

		概要	
Part A	本文	第一章：はじめに	アクション&レガシープランの全体像
		第二章：スポーツ・健康	各章の基本的な構成 ・レガシー：2020年以降を見据え、何を後世に残すべきか ・アクション：実施されたアクション及び、レガシー創出の為に行うべきアクション（主な例） (レガシー及びアクションの前提となる「基本的な考え方」や「現状と課題」については、2016年を参照として本年度版では省略)
		第三章：街づくり・持続可能性	
		第四章：文化・教育	
		第五章：経済・テクノロジー	
		第六章：復興・オールジャパン・世界への発信	
		第七章：東京2020参画プログラム	東京2020参画プログラムについて記述
		第八章：東京2020フェスティバル（仮称）	東京2020フェスティバル（仮称）について記述
Part B	一覧表	アクション一覧	政府、東京都、被災3県、JOC、JPC、経済界、組織委員会等のアクション一覧を記載
Part C	一覧表	参画プログラム認証事業一覧	東京2020参画プログラムにおいて認証された事業の事例を紹介

2016年版からの主な変更点

- 全体構成として、本文とアクション一覧及び参画プログラムの認証事業一覧の三部構成に変更。
- 本文については時点更新及び「東京2020参画プログラム」「東京2020フェスティバル」について追記。2章以降の「基本的な考え方」「現状と課題」については省略するとともに、実施された事業を事例として記載。
- アクション一覧については時点更新。参画プログラムの事業については各事業に1枚の概要資料を作成。

<参考> アクション&レガシープラン2017イメージ

PartA 本文	PartB アクション一覧	PartC 参画プログラム認証事業一覧
<ul style="list-style-type: none"> 第一章～第八章で構成 アクション&レガシープランに関する基本的な考え、各分野における残すべきレガシー、東京2020参画プログラム及び東京2020フェスティバル（仮称）について記載。 	<ul style="list-style-type: none"> 政府、東京都、被災3県、JOC、JPC、経済界、組織委員会等のアクション一覧を記載 	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020参画プログラムの実績を各事業1枚程度に纏め記載 



夏祭りについて

東京五輪音頭 -2020-

- ・1964年に流行した「東京五輪音頭」をアレンジ
- ・今夏を皮切りに全国の祭りで歌い踊って頂き、東京2020大会に向けた盛り上がりを創出

アレンジのポイント

曲調を現代風アレンジするとともに、歌詞に「パラリンピック」「2020年」の要素を加え、オリンピック・パラリンピックの素晴らしさを讃えます。

老若男女が楽しめることはもちろん、車いすの方にも踊って頂ける振付も。

石川さゆりさんを始めとする3名のアーティストが参加。

盛り上がり創出のポイント

全国の商工会等を通じて、夏祭り、盆踊り等でご活用頂けます。

プロモーションビデオや振付ビデオをYouTubeで公開。

東京五輪音頭 -2020-

作詞：宮田隆 作曲：古賀政男 編曲：村田陽一

編詞：東京五輪音頭 -2020- 制作チーム

振付：井手茂太

参加アーティスト：石川さゆり 加山雄三 竹原ピストル

～ この夏！「法被・うちわ・浴衣」で全国夏祭りを盛り上げたい！ ～



法被・うちわは7月3日（月）より、浴衣は7月14日（金）より、東京2020オフィシャルオンラインショップ他にて、一般販売を開始いたしました。<https://tokyo2020shop.jp/>
法被・うちわは、一般販売に先駆け、全国の商工会議所などに夏祭りでの活用をお願いし、うちわは14万本以上の申込を頂いております。浴衣は、販売している東急ハンズ渋谷店のメディア露出が多く、話題をよんでいます。

応援プログラムとして認証した夏祭りの例

○7月29日「第38回品川区民まつり大会 荏原第三地区」

場所：品川区立京陽小学校
主催：品川区青少年対策地区委員会連合会

(品川区民まつりの様子)

○7月29日「立野地区区民館運営委員会 第31回夏まつり（盆おどり）」

場所：練馬区立立野小学校
主催：立野地区区民館 運営委員会

○8月2日・3日 「納涼盆踊り大会」

場所：練馬区立豊玉錦公園
主催：豊玉西町会

○8月5日・6日「みんな集合！大盆踊り大会2017」

場所：江東区文化センター
主催：公益財団法人江東区文化コミュニティ財団、東陽四丁目連合会

